

IV 市民会館・公民館の状況

1 市民会館・公民館施設概要

会館は、基本的には多様な文化諸活動に対応しつつ（市民会館）教育機関としての公民館本館の機能を果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07 m^2 建設延床面積 6,771.253 m^2

鉄筋コンクリート造り、地下1階、地上3階の構造

その施設、設備、職員、機能を通じ

- (1) 市民の出あい場（ひろば）
- (2) 集団活動のよりどころ
- (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
- (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造（劇場、音楽堂）

の役割を果たしている。

また、武蔵野台地区、熊川地区に、社会教育活動の拠点として、地域のさまざまな文化創造の場として公民館分館・松林会館・白梅会館がある。

- (1) 松林会館（武蔵野台地区）が、昭和54年5月に開館した。

敷地面積 1,104.98 m^2 建設延床面積 564.3 m^2

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

- (2) 白梅会館（熊川地区）が、昭和55年5月に開館した。

敷地面積 2,158.03 m^2 建設延床面積 570.59 m^2

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

2 市民会館・公民館利用状況

施設名			月別			4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3			合 計		
			区分			有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総			
			料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数
市 民 会 館	ホー ル	大 ホー ル	11		11	31		31	33		33	23		23	13		13	23		23	35		35	40		40	10		10	14		14	22		22	18		18	273		273			
		小 ホー ル	24		24	28		28	23		23	49		49	15		15	21		21	28		28	27		27	14		14	17		17	15		15	29		29	290		290			
		小 計	35		35	59		59	56		56	72		72	28		28	44		44	63		63	67		67	24		24	31		31	37		37	47		47	563		563			
	集 会 室 等	リハーサル室	0	4	4	9	4	13	5	6	11	6	18	24	3	4	7	11	9	20	8	10	18	9	23	32	2	3	6	5	7	12	5	4	9	0	5	5	63	97	160			
		第1集会室	6	35	41	10	22	32	9	30	39	3	30	33	7	8	15	7	30	37	12	40	52	3	32	35	7	20	27	3	22	25	3	36	39	4	38	42	74	343	417			
		第2集会室	7	34	41	10	27	37	9	38	47	6	30	36	8	10	18	2	30	32	5	45	50	3	39	42	4	23	27	4	36	40	4	37	41	5	40	45	67	389	456			
		第3集会室	8	34	42	11	32	43	7	40	47	6	45	51	4	22	26	6	34	40	20	36	56	2	38	40	2	34	36	1	32	33	5	30	35	8	40	48	80	417	497			
		第4集会室	22	24	46	4	27	31	15	25	40	2	29	31	11	16	27	15	23	38	12	42	54	5	33	38	2	33	35	8	32	40	9	23	32	2	36	38	107	343	450			
		第5集会室	23	21	44	6	32	38	18	33	51	5	39	44	4	27	31	13	30	43	15	41	56	2	39	41	3	29	32	13	25	38	7	24	31	6	30	36	115	370	485			
		第6集会室	9	24	33	8	15	23	8	15	23	3	21	24	14	8	22	8	15	23	12	26	38	4	20	24	4	21	25	8	16	24	9	19	28	5	17	22	92	217	309			
		第7集会室	4	22	26	5	14	19	5	15	20	1	20	21	13	8	21	5	15	20	7	26	33	2	20	22	3	21	24	7	16	23	7	19	26	3	14	17	62	210	272			
		第8集会室	14	5	19	0	11	11	9	8	17	2	11	13	4	7	11	2	9	11	6	16	22	2	13	15	2	8	10	3	11	14	5	3	8	8	8	16	57	110	167			
		展 示 室	0	0	0	0	0	0	0	13	13	0	6	6	0	18	18	0	0	0	0	17	17	0	9	9	0	0	0	0	3	3	0	0	0	9	0	9	9	66	75			
		計		128	203	331	122	184	306	141	223	364	106	249	355	96	128	224	113	195	308	160	299	459	99	266	365	53	192	245	83	200	283	91	195	286	97	228	325	1,289	2,562	3,851		
公 民 館	調 理 室	0	27	27	0	23	23	0	23	23	0	27	27	0	18	18	0	18	18	0	34	34	5	20	25	0	23	23	1	17	18	4	19	23	0	31	31	10	280	290				
	美 術 室	0	4	4	0	19	19	0	28	28	0	11	11	0	13	13	0	3	3	0	55	55	0	9	9	0	2	2	0	15	15	0	20	20	0	18	18	0	197	197				
	音 楽 室	1	26	27	1	30	31	4	26	30	0	25	25	0	24	24	1	23	24	0	42	42	1	31	32	0	19	19	0	22	22	0	31	31	0	42	42	8	341	349				
	視 聴 覚 室	1	24	25	1	28	29	1	31	32	0	30	30	2	11	13	2	21	23	0	38	38	0	23	23	0	14	14	1	24	25	0	19	19	18	25	43	26	288	314				
	児 童 室	0	19	19	2	21	23	0	21	21	4	12	16	0	4	4	1	16	17	1	19	20	1	9	10	1	11	12	0	17	17	0	20	20	1	21	22	11	190	201				
	計	2	100	102	4	121	125	5	129	134	4	105	109	2	70	72	4	81	85	1	188	189	7	92	99	1	69	70	2	95	97	4	109	113	19	137	156	55	1,296	1,351				
合 計		130	303	433	126	305	431	146	352	498	110	354	464	98	198	296	117	276	393	161	487	648	106	358	464	54	261	315	85	295	380	95	304	399	116	365	481	1,344	3,858	5,202				

松 林 会 館 利 用 状 況

		57年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	58年 1月	2月	3月	合 計
主 催 事 業	件数	12	16	25	28	26	18	37	24	19	21	36	38	300
	人員	264	339	403	582	413	292	4,094	466	461	367	579	533	8,793
住 民 の 社会教育活動	件数	64	62	73	78	60	71	81	62	49	49	60	62	771
	人員	983	792	1,047	1,098	750	993	1,028	816	759	762	873	955	10,856
公 共(的) 団 体	件数	7	8	5	12	4	7	6	3	1	2	9	8	72
	人員	125	132	60	465	170	100	89	51	7	68	157	159	1,583
政治・宗教団体	件数	4	5	4	3	4	6	4	4	2	3	5	6	50
	人員	230	206	200	150	200	330	195	200	100	150	260	275	2,496
企 業	件数	0	1	3	0	0	0	5	0	0	0	0	0	9
	人員	0	40	50	0	0	0	192	0	0	0	0	0	282
そ の 他	件数	12	8	9	14	7	13	12	10	10	9	16	13	133
	人員	259	113	200	210	145	230	133	247	246	151	375	231	2,540
計	件数	99	100	119	135	101	115	145	103	81	84	126	127	1,335
	人員	1,861	1,622	1,960	2,505	1,678	1,945	5,731	1,780	1,573	1,498	2,244	2,153	26,550

白 梅 会 館 利 用 状 況

		57年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	58年 1月	2月	3月	合 計
主 催 事 業	件数	9	23	9	13	8	16	31	10	6	17	25	24	191
	人員	222	1,368	121	128	177	275	571	149	214	196	353	267	4,041
住 民 の 社会教育活動	件数	95	90	116	112	83	93	113	102	102	86	93	108	1,193
	人員	1,546	1,216	1,781	1,919	1,327	1,469	1,802	1,777	1,898	1,828	1,534	1,844	19,941
公 共 (的) 団 体	件数	0	0	0	2	1	0	2	1	2	1	0	8	17
	人員	0	0	0	90	17	0	25	15	40	30	0	192	409
政 治 ・ 宗 教 団 体	件数	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	5
	人員	40	0	0	30	0	0	0	30	50	0	0	50	200
企 業	件数	2	0	0	0	0	2	0	1	1	0	2	0	8
	人員	60	0	0	0	0	60	0	50	80	0	74	0	324
そ の 他	件数	2	0	1	0	3	2	5	5	5	3	8	7	41
	人員	60	0	40	0	70	60	65	51	52	30	130	120	678
計	件数	109	113	126	128	95	113	151	120	117	107	128	148	1,455
	人員	1,928	2,584	1,942	2,167	1,591	1,864	2,463	2,072	2,334	2,084	2,091	2,473	25,593

3 公民館運営審議会

公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する機関である。この制度は社会教育法上必置制となっており、本市の場合昨年10月から社会教育委員との兼任から独立し、任期2年・定数10名で構成されている。

本年度の審議会の会議内容は次のとおりである。

昭和57年4月30日(金) 午後1時30分 小平中央公民館

都公連総会

昭和57年5月1日(土) 午後5時30分 公民館

- ① 職員の人事異動紹介
- ② 都公連通常総会の報告
- ③ 公民館事業——幼児教室について諮問

昭和57年5月15日(土) 午後7時00分 公民館

- ① 諮問された件についての追加資料の説明と審議

昭和57年5月29日(土) 午後7時00分 公民館

- ① 諮問された件についての追加資料の説明と審議

昭和57年6月12日(土) 午後7時30分 公民館

- ① 諮問された件について、広く市民の方から意見を聴いて審議

昭和57年6月26日(土) 午後5時00分 公民館

- ① 今後の運営について

昭和57年7月1日(木) 午後1時30分 立川社会教育会館

都公連委員会

昭和57年7月10日(土) 午後7時00分 公民館

- ① 諮問された件について、広く市民の方から意見を聴いて審議
- ② 都公連委員会報告
- ③ 公民館大会の出・欠席について

昭和57年7月24日(土)

- ① 諮問された件について審議、答申書(案)の作成

昭和57年7月30日(金) 午後7時00分 公民館

- ① 答申書(案)の作成

昭和57年8月14日(土) 午後4時00分 公民館

- ① 答申書の最終決定
- ② 館長へ委員長から答申書を手渡す

昭和57年9月3日(金) 午前10時00分 代々木オリンピック青少年センター

関連甲信越静・都公民館大会

昭和57年11月12日(金) 午後2時00分 公民館

- ① 新委員委嘱状交付
- ② 新委員長の選出
- ③ 57年度事業計画について
- ④ 公民館運営審議会について
- ⑤ その他

昭和58年1月31日(月) 午後1時30分 杉並区公民館

都公連委員会

4 奨励・援助

人的援助

各団体、グループ、サークル、個人の相談に応じ、必要な助言、指導、援助等に職員、講演助言者等の派遣紹介を行った。年間延回数 229 回

なお、公民館本館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これらの市民活動の相談にのり、必要な援助をするため、館職員が1名残る体制をとっている。

(午後5時から10時まで)

事務援助

印刷事務等

会場借上

大ホール2回 福生音楽愛好者連絡会 福生吹奏楽愛好会

小ホール2回 福生吹奏楽愛好会 市民コーラス(ザ・ヨリアイ)

昭和57年 社会教育備品貸出件数

月		57年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	58年 1月	2	3	計
利 用 団 体		4	6	8	6	10	4	3	3	9	3	4	4	64
内 訳	16 ミリ映写機	2	4	5	5	7	1	3	2	5	2	3	2	41
	16 ミリフィルム	2												2
	8 ミリ映写機				1				1					2
	スライド映写機						1					1		2
	スクリーン		1	1	5	4		3	3	1	2	2	2	26

月		57年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	58年 1月	2	3	計
内 訳	暗 幕	1		1	2	1	1		1			1		8
	空 リール	1	1		1	1				1			2	7
	O H P				2	2						3		7
	テープレコーダー		1											1
	トランシーバー	1	1			1				1				4
	スポットライト			1	1					3				5
	延長コード	1												1

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

月		57年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	58年 1月	2	3	計
利 用 団 体		5	4	11	6	4	4	6	8	7	6	9	8	78
本 数		13	6	23	15	11	5	13	16	14	7	23	19	156

月平均 6.5 団体

13本

5 公民館主催事業

幼 事

1. 公民館幼児室事業

目的：幼児前期の子どもの成長・発達をはかるため、その興味・関心を育てながら、仲間をつくるちからを身につけ、仲間の中で遊び、行動するちから（社会性の基礎）を養い、近隣日常生活でのお友達づくりにむける。

主題：「異年齢集団への適応と遊びのちから」

－仲間の中で行動し創造する知力の発達－

内容：幼児が集団の中で自立的行為ができるよう、①情緒安定をもとに、②幼児間のつながりを形成し、③能動的な共同行為となっていくことにむける。

方法：ア）、集団での過ごし方等の形成（全般的な基盤的生活習慣との関連）。

イ）、遊び道具等を用いた、みんなの中での一人自由遊び。

ウ）、紙芝居や創作による、想像力と創ることへの関心。

エ）、集団遊び（複数の仲間との遊びと行動へ）。

実施、設定、1コース15人・1歳以上から就学時までの幼児で、原則として幼稚園・保育

園就園児を除く・日曜及び休館日を除く日の午前中を原則とする・実施コース・全9・実施回数全10回。

期 間 昭和58年1月から3月まで。

会 場 公民館本館、松林分館、白梅分館

参加幼児数 15人×9コース×10回=1,350人

	コ ー ス 名	定 員	回 数	延参加	保護者会
1	本館月曜幼児室	15	10	150	12人
2	〃 水曜幼児室	15	10	〃	12人
3	〃 木曜幼児室	15	10	〃	15人
4	〃 金曜幼児室	15	10	〃	14人
5	〃 土曜幼児室	15	10	〃	13人
6	松林月曜幼児室	15	10	〃	12人
7	〃 土曜幼児室	15	10	〃	12人
8	白梅木曜幼児室	15	10	〃	11人
9	〃 金曜幼児室	15	10	〃	14人

少年の分野

たんけん教室

小学4年生から中学3年生までを対象とし、市内や近隣の自然・文化財の様子を見て歩き、私たちの日常生活と自然や文化財との関係を考える機会とする。

期 間 昭和57年4月24日(土)～昭和58年3月27日(水) 全15回

参加者 25人 延人数 375人

月 日	テ ー マ	内 容
4. 24	オリエンテーション	自己紹介とたんけん教室の全体的説明など
5. 22	市内河原たんけん	市内の河原や公園でコンパスの使い方を学ぶ
6. 6	滝山たんけん I	滝山丘陵の植物・野鳥・昆虫の観察
6. 27	草花たんけん I	草花丘陵の植物・野鳥・昆虫の観察
7. 17	市内文化財めぐり	市内の文化財を見て歩き、その成立を考える
9. 19	滝山たんけん II	滝山丘陵のアケビを実際に食べてみよう
10. 23	奥多摩たんけん I 打合せ	奥多摩ハイキングの事前打ち合わせ
11. 3	奥多摩たんけん I	市道山の植物の観察とハイキング

月 日	テ ー マ	内 容
11. 14	滝山たんけん Ⅲ	滝山丘陵の「じねんじょ」探しと試食
12. 12	草花たんけん Ⅱ	草花丘陵の寺社の成立と福生の関係を学ぶ
12. 24	クリスマスパーティー	スライドや写真を見ながらの反省会
1. 22	奥多摩たんけん Ⅱ 打合せ	奥多摩ハイキングの事前打合わせ
1. 30	奥多摩たんけん Ⅱ	浅間尾根の二次林の様子を観察する
2. 11	滝山たんけん Ⅳ	滝山の二次林と前回の二次林を比較する
3. 12	ファミリーハイキング打合せ	子どもたちによるハイキングの企画・立案

今年度のファミリーハイキングは、下見・本番両方とも雨天のため実施できなかった。

夏休み自然教室

小学4年生から中学3年生までを対象とし、市内の自然（主に多摩川）を観察し、自然の持つはたらきとしくみを知る機会とする。

期 間 昭和57年7月26日(月)～8月25日 全14回

参加者 22人 延人数 187人

月 日	テ ー マ	内 容	場 所
7. 26	オリエンテーション	自己紹介・教室の説明など	公 民 館
7. 27	野鳥と河原	野鳥のうごきをかんさつしてみよう	南 公 園
7. 29	昆虫と河原	昆虫の生活の様子をかんさつしてみよう	〃
7. 30	野鳥の生活場所	野鳥の生息状況を観察してみよう	福 生 団 地 下
7. 31	昆虫の移動	昆虫のうごきを調べてみよう	南 公 園
8. 7	植物の生活場所	植物の生活の様子をかんさつしてみよう	鉄 橋 下
8. 10	〃	同 上	〃
8. 13	まとめ Ⅰ	かんさつ資料のグラフ化	公 民 館
8. 16	まとめ Ⅱ	同 上	〃
8. 18	水生昆虫と河原の状況	水生昆虫をかんさつしてみよう	柳山公園 付 近
8. 20 8. 21	{ 24時間体験キャンプ	市内で自然の移りかわりを体験する	〃
8. 25	まとめ Ⅲ	全般的なまとめ	公 民 館

夏休みマンガ教室

小学4年生以上を対象とし、今日のマンガが全般が子どもたちに与えている影響を考え、実際にマンガを描くことを通して現実のマンガのあり方を考える機会とした。

期 間 昭和57年8月9日(月)～13日(木) 全3回

参加者 20人 延人数 60人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 9	マンガ全般の説明	マンガの歴史や道具の説明	原嶋 卓三 氏
8. 11	マンガの描き方 I	具体的な描き方の説明	
13	" II	色や表情の表わし方	

やさしいエレクトロニクス教室

中学生以上を対象とし、身近なエレクトロニクス技術を理解する機会とした。

期 間 昭和57年7月9日(金)～29日(木) 全4回

参加者 12人 延人数 48人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 9	テスターを作ろう	テスターの製作を通して、やさしい 電子回路の仕組みとはたらきを学ぶ	岡田 紀夫 氏 畑 俊弘 氏
7. 15	"		
7. 22	"		
7. 29	やさしい電子回路	テスターを利用し、水位ブザーを作ってみよう	

指文字・手話教室(子ども会リーダー研修会)

小学4年生以上の子どもとその親を対象とし、子どもたちには表現力を身につける機会とし、大人たちには手話の今日的な意味を考える機会として実施した。

期 間 昭和57年1月29日(土)～4月9日(土) 全10回

参加者 25人 延人数 250人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 29	オリエンテーション	自己紹介とゲーム	古沢 初枝 氏 谷山 ショウ 氏
2. 5	指文字の学習 I	指文字の学習	
2. 19	" II	"	
2. 26	手話の学習	手話実技	
3. 5	"	"	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 12	手話の学習	手話実技	
3. 19	〃	〃	
3. 26	〃	〃	
4. 2	〃	〃	
4. 9	〃	〃	

子どもサバイバル教室

異年令の集団活動の中で、実習を通して工夫する心と、協調心を育む。

期 間 昭和57年6月23日(木)～7月22日(木) 午後2時～4時 全7回

会 場 松林分館および野外

参加者 21人×7＝147人

月 日	内 容	講 師	場 所
6. 23	ゲームで友達をつくろう	担当職員	松林分館
6. 30	水をつくろう	星島 清光 氏	〃
7. 7	火をつくろう	〃	〃
7. 14	むすびの技術を覚えよう	担当職員	〃
7. 21	キャンプ	〃	奥多摩町営
7. 22			川井キャンプ場

夏休み工作教室・びんぼう工作

既成・できあいの物資文明の中で、物を創り出すことのよろこびを忘れてしまった子供達に、身近な材料を利用して、創るよろこびが感じられる機会とした。

期 間 昭和57年8月21日(土)～8月23日(月) 午後2時～4時 全3回

会 場 松林分館

参加者 23人×3＝69人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 21	ステンドグラス	デザイン	松本 加代子 氏
8. 22	〃	型ぬき	
8. 23	〃	セロハンはり	

親子工作教室・からくりはりこ

紙と粘土という身近な素材を使って、動くおもちゃを作るなかで、自由な創意、たくみな工夫を育む。

期 間 昭和58年2月26日(土)～3月12日(土) 午後2時～4時 全4回

会 場 松林分館

参加者 18人×4＝72人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 26	からくりはりこ	デザイン構想	木住野利明 氏 (絵本作家)
3. 5	〃	部品づくり	
3. 6	〃	組立て	
3. 12	〃	色つけ	

子ども会リーダー研修会(わんぱく教室)

子ども会ジュニアリーダーとして 子ども会運営に必要な基本的技術の修得及び、リーダーとして、仲間に働きかけ、何かをやりとげる力と、自治的能力を身につけることを目標とした。

期 間 昭和57年6月26日～8月19日 全10回

会 場 松林分館

参加者 12人×10回 延120人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 26	オリエンテーション	研修目標の説明	担当職員
7. 10	ゲーム指導法	ゲーム指導の基礎理論と実技	〃
7. 17	〃	ゲームの指導の実技	〃
7. 24	〃	ゲーム指導の実技	〃
7. 30	会議のもち方、記録のとり方	子ども会リーダーとして、会議のもち方	〃
8. 4	オリエンティングの方法と実習	オリエンティングの方法、実習	高 校 生 指導員担当職員
8. 8	キャンププログラムのたて方	ワーク、キャンプのプログラムのたて方	〃
8. 11	〃	〃	〃
8. 16	キャンプ事前打合せ	キャンピングの事前打合せ	〃
8. 18	ワーク、キャンプ	キャンプ、川井キャンプ場にて	〃
8. 19	川井キャンプ場	1泊2日	〃

子ども教室

いま、子どもをみる目が、学校の成績という評価で一律に計る傾向がある。かつて、地域の中には、子どもたちは、子ども独自の価値基準を持っていました。それはルールと技と「おみそ」の存在をゆるせるやさしさを持った社会であった。それはまた実際に活用できる生きた知恵が要求された社会であった。そうしたものをふくめて異年齢のあそび集団が存在していた。

この教室は異年齢のあそびを通して、子どもたちの豊かな発達を保障しようという目的で、次の目標をもって開催した。

- (1) あそびを通して、地域の異年齢集団の形成
- (2) 仲間に働きかけ、何かをやりとげる力を育て、子どもに自治能力を身につけさせる。
- (3) 手、足のたくみさを回復する。

期 間 昭和57年5月29日から昭和58年 全26回

会 場 松林分館

参加者 38人×26回

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 29	たのしくあそぼう	ゲーム、班ぎみ	担当職員
6. 5	室内ゲームのいろいろ	室内ゲーム	〃
6. 19	〃	〃	〃
7. 3	野外ゲーム	外あそびゲーム	〃
7. 17	公園であそぼう	Sケン、トロケイ、つかみおに	〃
8. 7	竹でつくろう	竹の回転人形、竹トンボづくり	〃
8. 14	〃	〃	〃
8. 21	ナイト キャンプ	松林前庭でキャンプを実習	高校生指導員、 担 当 職 員
8. 22	〃	ワーク、キャンプ	〃
9. 11	だれでも展に向けて、 大きなお面づくり	だれでも展出品用1mの大型お面をつくる	担当職員
9. 18	〃	〃	〃
9. 25	〃	〃	〃
10. 2	〃	〃	〃
10. 9	〃	〃	〃
10. 16	〃	〃	〃
11. 6	外にたんけんに出よう	多摩川川原へ出てあそぶ	高校生指導員、 担 当 者
11. 20	〃	秋川草花丘陵へ出かける	〃

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 27	外にたんけんに出よう	秋川草花丘陵へ出かける	高校生指導員、 担 当 者
12. 4	たこをつくる	連ダコ作り	〃
12. 11	〃	〃	〃
12. 18	クリスマス会	クリスマス会	〃
1. 23	室内ゲーム		〃
2. 5	新しいゲームを覚えよう	ゲームのたのしみ方、覚え方	飯田 弘 氏
2. 19	〃	〃	〃
3. 5	外あそび	体をつかって動きまわる外あそび	担当職員
3. 19	パンをつくろう	手づくりパンづくり	高校生指導員、 担 当 職 員

子どもまつり

子どもたちの手で、統一したテーマにとりこんでいく中で、集団形成、企画から実施までの過程を学ぶ機会として実施した。

期 間 昭和 57 年 8 月 25 日(※)～ 10 月 20 日(※) 午後 2 時～ 4 時 全 10 回

会 場 白梅分館

参加者 21 人× 9 回＝ 189 人 当日参加者 182 人

月 日	内 容	内 容
8. 25	オリエンテーション	プログラムの説明・自己紹介
9. 1	おまつりの企画	どんなおまつりにしていくか話し合う
9. 8	〃	〃
9. 22	当日向け詳細準備活動	割ばし鉄砲、あめちゃんのつくり方を仲間同士教え合う
9. 29	〃	王冠バッチのつくり方を学ぶ
10. 6	〃	ペタペタ工作を学ぶ
10. 13	〃	ポスター・チラシづくり
10. 16	〃	当日の役割分担、会場づくり
10. 17	子 ど も ま つ り	
10. 20	反省会	まとめ

子どもまつりの内容

- 実行委員の子どもたちを中心に、「割ばし鉄砲をつくろう」「あめちゃんをつくろう」

「パッチをつくろう」「ペタペタ工作をしよう」「らくがきをしよう」「こま検定会」の各コーナーを開設した。

- 子どもたちの手づくり作品（工作・絵・手芸など）を展示した。

わんぱく教室

集団で遊ぶことの楽しさ、物をつくることの難しさを味わう機会として実施した。

期 間 昭和57年6月30日(木)～8月11日(木) 原則として午後2時から4時30分
全7回

会 場 白梅分館、羽村町阿蘇公園

参加者 15人×7回＝105人

月 日	テ	マ	講 師
6. 30	オリエンテーション・ゲームを覚えよう		担 当 職 員
7. 7	水でっぼうを作ろう		〃
7. 14	手打ちうどんを作ろう		〃
7. 28	竹トンボを作ろう		河久保金蔵 氏
8. 2	ゲームを覚えよう		担 当 職 員
8. 9	デイキャンプ打合せ・準備		〃
8. 11	デイキャンプ		〃

冬のわんぱく教室

集団で遊ぶことの楽しさ、物をつくることの難しさを味わう機会として実施した。

期 間 昭和57年12月8日(木)～昭和58年1月26日(木) 午後2時～4時 全8回

会 場 白梅分館・多摩河原

参加者 23人×8回＝184人

月 日	テ	マ	講 師
12. 8	みんなであそぼう		担 当 職 員
12. 15	かん馬をつくろう		〃
12. 22	けん玉をつくろう		〃
12. 27	お正月に家族で楽しめるゲームをおぼえよう		〃
1. 5	コマであそぼう		〃

月 日	テ	マ	講 師
1. 12	タコをつくろう		担 当 職 員
1. 19	連ダコをつくろう		"
1. 26	タコをあげてあそぼう		"

親と子のひろば

親子での手づくり創作活動を通して、親子の心のふれあいを深める機会として実施した。

会 場 白梅分館

参加者 延人数 17人

日 時	内 容	指 導 者	参加者
昭和57年 8月26日(木) 午前10時～正午	ペタペタ工作	松本加代子 氏	61人
昭和57年 11月28日(日) 午後2時～4時30分	竹馬づくり	担 当 職 員	13人

子ども手芸教室

自分の手でものを作るよろこび、仲間と一緒に作るたのしさを味わう機会として実施した。

期 間 昭和57年7月28日(木)～8月2日(月) 午後2時～4時 全4回

会 場 白梅分館

参加者 20人 延人数 73人

月 日	テ	マ	内 容	講 師
7. 28	ポシェットをつくろう		班わけをしよう、糸をかけよう	担 当 職 員
7. 29	"		毛糸であもう	"
7. 30	"		ひもをつけよう	"
8. 2	"		どんなものができたかな	"

白梅親子映画会

親子連れで見られるような作品をとりあげ、子どもたちにすぐれた映像文化を提供するために実施した。

会 場 白梅分館

上映日	上映作品	上映時間	入場者
4. 25(日)	やさしいライオン・蜜蜂 マーヤの冒険	午前10時・午後2時	165人
5. 22(土)	新子鹿物語	午後1時15分・2時30分	190人
6. 27(日)	ホセリートの父をたずねて	午前10時・午後2時	75人
8. 22(日)	禁じられた遊び	午前10時・午後2時	65人
10. 24(日)	のどか森の動物大作戦	午前10時・午後2時	30人
12. 11(土)	森のおじいさんと3つのものがたり	午後2時・3時	132人
2. 27(日)	トンデモネズミ大活躍	午前10時・午後2時	86人

計 743人

白梅名画劇場

すぐれた映像芸術を身近なところで気軽に鑑賞できる機会として実施した。

会場 白梅分館

上映日	上映作品	上映時間	入場者
9. 19(日)	衝動殺人"息子よ"	午後2時	35人

青年教育

青年学級「英会話」

国際感覚豊かな青年が望まれる昨今、青年の英会話学習要求は目をみはるばかりである。ここでは英会話の学習を通じて仲間づくりを進めながら、自分を、福生という地域の中で見つめる機会とした。運営や内容編成など参加者の主体的活動をもとに実施した。

1. 期間 昭和57年5月26日～昭和58年3月30日
毎週水曜日 午後7時30分～9時30分 全42回
2. 会場 公民館第5集会室他
3. 講師 宮本 長治 氏 (青年学級専属講師) Nicholas Hajuk
4. 教材 講師によるプリント
5. 対象 15才～30才までの初心者
6. 参加者 40人×42回＝1680人

ミニコミ編集入門教室

“受け手”から“送り手”として自己表現をミニコミづくりの中から獲得、さらに他者との
かかわり（編集会議・取材など）を通して協調性・主体性を養う。

1. 期 間 昭和57年9月30日～12月23日
毎週木曜日 午後7時30分～9時30分 全12回
2. 会 場 公民館第1・2集会室
3. 講 師 吉村 千穎 氏 （平凡社「太陽」元デスク）
4. 参加者 19人×12回＝228回

若い市民の講座

青年層の学習・文化活動の要求に応える為に、さらに、サークル活動の活発化をねらい、青
年団体連絡協議会との共催で3コース、公民館主管で1コース、計4コース実施した。

(A) レタリング入門教室（公民館主管）

- 期 間 昭和58年2月3日～3月31日
毎週木曜日 午後7時30分～9時30分 全10回
- 会 場 公民館第1・2集会室
- 講 師 佐藤 衣子 氏
- 教 材 講師のプリントによる
- 参加者 11人×10回＝110人

(B) 管楽器講習会

- 期 間 昭和58年1月29日～3月6日
毎週土曜日 午後7時～9時 全6回
- 会 場 公民館音楽室
- 指 導 福生吹奏音楽愛好会々員
- 参加者 4人×6回＝24人

(C) 中級8ミリ制作教室

- 期 間 昭和58年2月2日～3月2日
毎週水曜日 午後7時30分～9時30分 全5回
- 会 場 公民館白梅分館
- 講 師 佐々木 堅次 氏
- 参加者 5人×5回＝25人

(D) 録音技術入門教室

期 間 昭和58年2月26日～5月5日
毎週土曜日 午後7時30分～9時30分 全10回
会 場 公民館視聴覚室、6・7集会室他
講 師 栗原 正和 氏
参加者 12人×10回=120人

青年団体リーダー研修会

社会教育関係団体には教育委員会より補助金が支出されている。しかし、受ける側の団体がそのことをどう考えているのか、というバラバラであり、補助金に関する知識も少ない。

この研修会ではサークルのリーダー層を対象に「補助金」をテーマとしながら社会教育についての基礎的学習を進めた。

1. 期 間 昭和58年3月6日～3月27日
毎週日曜日 午前10時～12時 全4回 (一泊二日の研修会含む)
2. 会 場 公民館第4集会室、東京都武蔵野青年の家
3. 講 師 宮岡 一雄 氏 (元福生市補助金等調査専門委員会委員長)
小野 征夫 氏 (明治学院大学講師)
4. 教 材 教育基本法、社会教育法等、福生市補助金等調査専門委員会答申 他
5. 参加者 10人×4回=40人

成人式及び20歳のつどい

<成人式>

1. 日 時 昭和58年1月15日 午前10時30分～11時30分
2. 会 場 市民会館大ホール
3. 主 催 福生市、福生市教育委員会
4. 内 容 君が代吹奏、主催者祝辞、来賓祝辞
5. 対 象 昭和37年4月2日から昭和38年4月1日までに出生した679人
6. 参加者 404人

<20歳のつどい>

成人者みずからが、成人することの意味を考え、祝い、地域の間関係などを再確認する機会として実施した。実施にあたっては、新成人者に呼びかけ「20歳のつどい実行委員会」を結成し、準備にあたった。

1. 日 時 昭和58年1月15日 正午～午後3時30分

2. 会 場 市民会館第3・4・5・6・7集会室

3. 主 催 20歳のつどい実行委員会、福生市公民館

4. 内 容

(イ) 立食パーティー

(ロ) 談話コーナー

(ハ) お茶席

5. 参加者 208人

<20歳のつどい実行委員会>

20歳のつどい実行委員会は、①成人者みずからが、成人することの意味を確認し、それをみんなのものとする。②20歳のつどいを自分たちの手でつくることによって、共通の活動への参加、連帯性の生まれる契機とする、③自分の生まれ育った、また現在生活している福生という地域を考える契機とする、を目的とし、新成人者全員に郵送した呼びかけで参加した4名の成人者で実行委員会を結成した。

1. 期 間 昭和57年12月3日～昭和58年1月15日 全10回

2. 会 場 公民館集会室他

3. 参加者 4人×10回=40人

婦人学級「新たな婦人の生き方をめぐって」

子育てや仕事、家事と日常の生活に追われる婦人が、その中での疑問や問題を整理し、生き生きとした女性の生き方をみつけるために。

期 間 昭和57年6月25日(金)～8月6日(金) 午後7時～9時 全6回

会 場 松林分館

参加者 50人×6=300人

月 日	テ - マ	講 師
6. 25	女子教育	武田 京子 氏 (評論家)
7. 2	婦人の労働	富永 静枝 氏 (白梅短大教授)
7. 9	婦人問題とは	樋口 恵子 氏 (評論家)
7. 23	私の婦人問題	
7. 30	婦人の老後	富永 静枝 氏
8. 6	地域の中でのかわり	武田 京子 氏

2. 婦人文章教室

毎日の生活に押し流されている婦人が、書くことによって、自分と自分の生活をみつめなおし、自分の考え方、価値感を文章で書けるようにする。

期 間 昭和57年10月1日(金)～11月5日(金) 午後7時～9時 全6回

会 場 松林分館

参加者 22人×6＝132人

月 日	テ	マ	講 師
10. 1	書くことの基本、ものを見、考える		桑名 靖治 氏 (都立三鷹高校教諭)
10. 8	書くことの作業 I 何をどう書くか		
10. 15	” II 書くことの手順と方法		
10. 21	” III 書いたものをたしかめる		
10. 29	文学作品に学ぶ		
11. 5	書くことの深化、書くことで自分をたしかめる。		

3. 日米婦人文化交流事業

昭和50年度から、横田基地将校夫人クラブの手により、日米親善の一環として、婦人の生活文化交流を目標に実施され、本年は、その8年目となる。

また、一昨年から相互交流の主体として、“ふっさレディーズフレンドシップサークル”が発足し、市民の自発的な交流となり、公民館は共催で実施した。

そこでアメリカ婦人との交流をもとに、“婦人の生活”“家庭やコミュニティ”など、日本の文化を考えながら、社会の中の私、人と人との係わりをもとめ、英会話習得の機会としてもすすめた。

(1) 期 間 昭和57年9月2日から昭和58年5月26日まで。

毎週木曜日 全36回 (アメリカの学期)

(2) 時 間 午前(A・B・C)クラス、午前10時～正午

午後(D・E・F)クラス、午後1時～3時

(3) 会 場 福生市公民館(各室)及び基地内施設等。

(4) ボランティアティチャー(日常交流者及び英会話指導)6クラス×2人

(ペアー指導)＝12人

(5) チェアーマン(仲介世話役) Mrs. Yuko Kelly.

(6) 教材、各クラス自主企画により、自主選定及び資料自作。

(7) 全体交流事業

I 川越市内見学（旧来日本のまちなみ等紹介）

II 福生の文化財紹介（伝統工芸、竹細工、紹介）

※ 尚、福生の文化財紹介の交流事業は、当該事業の柱として毎年実施するとともに年中行事・民俗行事等紹介には、郷土資料室から、資料・場・人などの点でご協力をいただき実施しているものです。

(8) 婦人文化交流クラスリーダー会

交流内容の豊かなふくらみとなるよう、一方の交流主体としての力を形成し、積極的な日本側交流事業の企画・実施をおこなった。

①日常クラス運営及び学習方法の検討・研究、②アメリカ婦人の生活や地域における行動様式の研究、③交流事業の企画・実施、④地域（福生）の婦人グループとの交流。

(9) 参加者

各クラス（15人×6クラス×36回）＋リーダー会（15人×9回）＝3,375人

4. 幼児室運営会

回	月 日	主 題	内 容	備 考
1	1. 12	(はじめに) オリエンテーション& よきつながちへ	・自己紹介・幼児室事業紹介・保護者の準備・役割	説明と話し合い
2	1. 19		親としての私達の学習及び「育児と私」	紹介と話し合い
3	1. 26	幼児の成長と 発達を学ぶ	生物としての人間と育児	明治大学教授 宮岡一雄 氏
4	2. 2		子どもの世界の捉え方	市内幼児教育専門家 大堀容子 氏
5	2. 9		子どもの発達環境の中で最も至る親の位置・役割	同 上
6	2. 16	子育てに思う	よき家庭形成から地域に係わる子育てに思う	婦人活動経験者 中村初乃 氏
7	2. 23	幼児室での	幼児の異年齢集団における発達について	幼児室指導者 加藤武子 氏
8	3. 2	子どもの成長	実施の内容と幼児の成長の実際について	同 高橋登美子氏
9	3. 9	親として	子どもの発達に向け、地域のおとな同士のつながりへ	話題提供 原田氏・佐藤氏
10	3. 16	まとめ	「子どもの成長と親の成長」「これからに向けて」	話し合い

(1) 「三者会議」

幼児が異年齢集団において、順調な成長・発達をとげていくためには、集団教育の場における指導者と、保護者の結びつきは欠かせません。また、家庭や地区の日常性の中で子どもが成長・発達を遂げていくことがもとめられます。こうした点で、母親・保育者、館職員の三者によって、各々の役割や連けいを深め、幼児の育成にむけ研究を実施した。

(2) 「保育者会議」

幼児の異年齢集団での遊びを通じての発達にむけ、①幼児の集団適応と発達の分析から指導方針の研究、②幼児育成の場の機能研究、③育児に関する親の相談への対応等、親と子が、ともに成長し得子態勢を整えるための研究の機会とし実施した。

期 間 昭和58年1月～3月まで (全7回)

会 場 公 民 館

参加者 三者会(20人×3人+20人)+保育者会(8人×4回)=112人

5. 婦人グループリーダー研修会

(1) 婦人グループ交流研究会

公民館オープン以来、公民館につどう婦人の仲間づくりや活動が様々におこなわれてきている中、更に手ごたえある活動となっていくよう、地域での婦人の学習の意義・グループ間の交流にむけて、以下のとおり実施した。

期 間 昭和58年3月11日～3月25日(金) 午後1時30分～4時 全3回

会 場 公 民 館

参加者 15人×3回=45人

回	日 時	内 容	備 考
1	3月11日(金) PM 1:30～4:00	「婦人グループ活動の交歓」 ・私達のグループは今こんな活動を ・活動のこれから ・私にとって活動の意義	公民館で活動する各 婦人のグループから
2	3月18日(金) 同 上	「地域で、これからの婦人の活動の 意義について」	小林 文人 氏 (東京学芸大学教授)
3	3月25日(金) 同 上	シンポジウム 「地域で、幼児期の子どもの育成について」 「婦人の交流する場をもとめて」	宮岡一雄氏・大堀容子氏 稲木道子氏 加藤武子氏

(2) 母親研修会

育児期の母親にとって、都市化・核家族化は、孤立化の状況を呈するものとなっている。そこで、育児に関する認識と、教育主体である親・おとなの在り方を研究するため、以下のとおり実施した。

期 間 昭和58年1月26日～3月14日 午後1時30分～3時30分 全3回

会 場 公 民 館

参加者 20人×3回=60人

回	日 時	内 容	備 考
1	1月26日(木) PM1:30～3:30	「幼児期の発達心理について」	大 堀 容 子 氏 (市内幼児教育専門家)
2	2月24日(木) 同 上	地域での子どもの仲間づくりの意味	話 し 合 い
3	3月14日(金) 同 上	「子どもの成長と親の在り方」	萩 原 元 昭 氏 (群馬大学助教授)

婦人学級「女性がのびやかに生きるために」

婦人問題について学習し、女性の生き方を考える機会として実施した。本講座に先立ち準備会をもち、内容を検討した。準備会参加者 10 人 延 32 人

準備会日程

日 時	内 容	備 考
昭和57年 9月13日(月) 午後7時30分～9時	自己紹介 準備会について	参加者と担当職員
昭和57年 9月20日(月) 午後7時30分～9時	婦人問題をどのように学習するか	〃
昭和57年 9月27日(月) 午後7時30分～9時	〃	〃
昭和57年 10月29日(金) 午後1時～3時	婦人問題とは	〃
昭和57年 11月 5日(金) 午後1時～3時	私たちの婦人問題	〃
昭和57年 11月12日(金) 午後1時～3時	プログラムづくり	〃

本 講 座

期 間 昭和58年1月27日(木)～3月3日(木)

午後1時30分～3時30分 全5回

会 場 白梅分館

参加者 21人 延人数 44人

月 日	テ ー マ	講 師
1. 27	映画鑑賞「男女平等への道」	担 当 職 員
2. 3	婦人問題って何だろう	折井美耶子 氏（歴史科学協会）
2. 10	女性が働くということは	島田とみ子 氏 （東海大学教授）
2. 24	女の老後を考える	
3. 3	婦人問題のまとめ	折井美耶子 氏（歴史科学協会）

家庭教育学級

互いに知り合い学習する中で、子どもを見る目を養い、同時に親の役割、自分の生き方を考える機会として実施した。

期 間 昭和58年1月14日(金)～3月25日(金) 午前10時～正午 全10回

会 場 白梅分館

参加者 延人数 94人

月 日	テ ー マ	講 師
1. 14	はじめに	担 当 職 員
1. 21	私と子育て	〃
1. 28	〃	〃
2. 4	〃	〃
2. 18	〃	〃
2. 25	公民館保育室を考える	〃
3. 4	子どもと絵本	澁谷 清視 氏（児童文学評論家）
3. 11	4月からの活動について	担 当 職 員
3. 18	子育て後の生き方	折井美耶子 氏（歴史科学協会）
3. 25	子どもの心と身体の発達	大堀 容子 氏（ひこばえ幼稚園）

女性講座「歴史に学ぶ」

戦後史の学習を通して、生命をうみだす女性としての立場から、これからの社会、戦争と平和の問題を考える機会として実施した。本講座に先立ち準備会をもち、プログラムづくりをした。

準備会

期 間 昭和57年4月9日(金)～7月16日(金) 午前10時～正午 全10回

会 場 白梅分館

参加者 5人 延人数 25人

月 日	内 容	講 師
4. 9	自己紹介、準備会のすすめ方	担 当 職 員
4. 16	講座でどんな学習をしたいか	参加者と担当職員
4. 23	なぜ歴史を学ぶのか	"
5. 7	歴史をどのように学習するのか	"
5. 14	戦後史をどのように学習するのか	"
5. 28	戦後史をプログラムづくり	"
6. 11	講義の流れを考える	"
6. 25	戦後史のプログラムづくり	"
7. 2	"	"
7. 16	"	"

本講座

期 間 昭和57年9月8日(木)～昭和58年2月16日(木)

午前9時30分～正午 全10回

会 場 白梅分館

参加者 23人 延人数 94人

月 日	テ ー マ	講 師
9. 8	なぜ戦後の歴史を学ぶのかー社会の歴史と私の歴史	川村善二郎 氏
9. 22	現代の日本の出発点ー8. 15の意味を考える	(東京経済大学講師)
10. 6	わたしの8月15日	担 当 職 員
10. 13	変ったもの変わらなかったものー民主改革とその限界	川村善二郎 氏
10. 27	対日占領政策の移り変わりー朝鮮戦争と講和問題	(東京経済大学講師)
11. 10	戦後の国際関係と日本の役割ー60年安保問題	
11. 17	わたしの戦後史	担 当 職 員
12. 8	これまでのふり返って	
1. 12	戦後教育のあゆみと私たちー教科書問題を中心に	川村善二郎 氏
1. 26	戦争と平和を考えるー私たちの課題は何か	(東京経済大学講師)

成人

1. 日旺市民大学講座

現代は、日常生活で学ぶ必要と機会が広がりつつあり、また、趣味・文化活動による創造意欲のふくらみも求められている時代である。そこで、あらためて「生きることと、学ぶこと」から、「地域で人と人との育くみ合うつながり」にむけて、市民の学習・文化・相互教育の場となる社会教育・公民館について考える機会とした。

期 間 昭和58年3月6日～3月27日 毎週日曜日 午前10時～正午 全4回

会 場 公 民 館

参加者 15人×4回＝60人

回	日 時	内 容	備 考
1	3月6日(日) 午前10時～正午	「人はどのようにして人たりうるか」 ・最も弱い生物体としての人間が、高度な働きをもつ生物となるための学習と環境	宮岡 一雄 氏 (明治大学教授)
2	3月13日(日) 同 上	「社会教育・公民館とは」 みんなでつくるまちと公民館	小林 文人 氏 (東京学芸大学教授)
3	3月20日(日) 同 上	私達の生活と学習について	参加者話し合い
4	3月27日(日) 同 上	都市的地域での生活から、公民館について 公民館のこれからと、私達の活動のこれから	話 し 合 い

高齢者

「語らいの広場」

「語らいの広場」は実施2年目となる。ここでは、高齢者の方々の生活経験をもとに、同世代の立場から、広くよきつながりを得る中で、更に、自己熟成にむけることとした。このことから、①人の在りよう（生きる確かなもの）を見つめ、②地域に世代間のつながりを形成しつつ、③市民間の育くみ合うつながりの形成から、生活の共同・協力となる地域づくりにむけ、次のとおり実施した。

1. 語らいの広場、公民館コース

期 間 昭和57年9月29日～昭和58年2月9日

会 場 公 民 館

参加者 20人×5回＝100人 全体会15人×5回＝75人 計175人

回	月 日	主 題	内 容	備 考
1	9月29日	はじめに	自己紹介・内容点検・相互連絡網の形成	話し合い
2	10月13日	全 体 会	国の内外時事談	石川常太郎 氏
3	10月27日	近隣のつながり	映画「豊かな高齢期」 をみてよきつながりを考える	映写と話し合い
4	11月10日	全 体 会	自然と人間	宮岡 一雄 氏
5	11月17日	世代間の交流	30・40代の方々との交流	交流と語らい
6	12月 1日	全 体 会	気象予報あれこれ	近藤 喜吉 氏
7	12月15日	全体親睦会	〃年末懇親会〃	全 員 で
8	12月22日	健康について	これからの健康管理について	福生保健所保健婦
9	1月26日	全 体 会	健康を基礎に今を豊かに生きるとは	話し合い
10	12月 9日	ま と め	語らいをふりかえり、これからのむけて	〃

2. 語らいの広場 扶桑コース

期 間 昭和57年9月29日～昭和58年1月26日

会 場 扶桑会館 及び 公民館

参加者 20人×5回＝100人 全体会15人×5回＝75人 計175人

回	月 日	主 題	内 容	備 考
1	9月29日	はじめに	自己紹介・内容点検・相互連絡網の形成	話し合い
2	10月13日	全 体 会	国の内外時事談	石川常太郎 氏
3	10月27日	税について	やさしい税のはなし	持田 力 氏
4	11月10日	全 体 会	自然と人間	宮岡 一雄 氏
5	11月17日	世代間の交流	公民館利用者間の交流	交流と語らい
6	12月 1日	全 体 会	気象予報あれこれ	近藤 喜吉 氏
7	12月 8日	生きること	人生の過去・現在・そしてこれから	田村 利一 氏
8	12月15日	全体親睦会	〃年末懇親会〃	全 員 で
9	1月12日	健康について	これからの健康管理について	保莉 トミ 氏
10	1月26日	全 体 会	健康を基礎に今を豊かに生きるとは	話し合い

3. 語らいの広場・合唱事業

期 間 昭和57年10月18日～昭和58年1月24日 全8回

会 場 公民館（音楽室）

参加者 20人×8回=160人

回	月	日	曲	目	備	考	指	導
1	10月18	月	AM 10:00~12:00	旅愁・赤トンボ・砂山	な っ か う う た い た	思 い 出 の た い た	発 声 の 基 礎	国立音楽大学 常任講師 (声楽) 瀬川 武 氏
2	10月25	"	ちいさい秋みつけた・この道					
3	11月15	"	秋の月・雪のふるまち					
4	11月22	"	翼をください・大きな古時計	み ん な で 唄 う 歌	最 近 の う た	メ ロ デ ィ ー を		
5	12月 6	"	切手のないおくりもの					
6	12月20	"	花・竹田のこもりうた					
7	1月10	"	エーデルワイス					
8	1月24	"	復習と自主化への話し合い					

4. 熟年活動研究会

公民館で、各種の学習・文化活動を実施している異世代との交流と、自己熟成を通しての地域社会参加とその活動の在り方について以下のとうり実施した。

期 間 昭和58年2月28日～3月7日 全2回

会 場 公 民 館

参 加 20人×2回=40人

回	日 時	内 容	備 考
1	2月28日(月) 午後1時～3時	「異世代の方々との交流」 ・成人の地域文化活動 ・青年期の活動 ・幼児の教育 ◎相互交流と学習の意味	音楽活動・青年活動・ 幼児教育活動の方法 提供と話し合い
2	3月 7日(月) 同 上	「これからの自己熟成への学びと、 地域社会参加にむけての 活動の在り方について」	講 師 原田 正二 氏 (大正大学教授)

視聴覚リーダー研修会

視聴覚教育の拡充を目指し、16ミリ発声映写機操作講習会を次のとおり実施した。又、今年度は午前と夜間2コース同時開催し、参加者の便をはかった。

1. 期 間 昭和57年6月7日～18日 全6回×2コース

午前コース 午前9時30分～正午

夜間コース 午後7時～9時30分

2. 会 場 公民館視聴覚室 他
3. 講 師 西野 光芳 氏 (東京都立川社会教育会館)
関口 喜之 氏 (羽村町公民館) 他
4. 参加者 午前コース 7人×6回= 42人
夜間コース 29人×6回= 174人 計 216人
5. プログラム

日 時	内 容
6月 7日(月)	開講式、16ミリ発声映写機の基本構造について 保守管理・フィルムについて
6月 9日(水)	視聴覚教育について、フィルム・映写機等の貸し出しについて 16ミリ発声映写機の操作について
6月11日(金)	実 技 1 " 2
6月14日(月)	実 技 3 " 4
6月16日(水)	実 技 5 " 6
6月18日(金)	実 技 7 " 8 自由操作、個別操作、修了式

合唱教室

市内在住の男女を募集したが、現実的には婦人が多数応募した。そのため講師とも相談し、婦人の表現力を拓げる機会にした。

期 間 昭和58年2月19日(土)～3月19日(土) 全5回

参加者 25人 延人数 100人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 19	オリエンテーション	かんたんな合唱をやってみよう	小林 光 氏
2. 26	コーラスの基本	合唱の基礎的な技術の説明と練習	村上 幸恵 氏
3. 5	基本的な発声	声の出し方の説明と具体的練習	太田 マキ 氏
3. 12	作曲家をかこんで	作曲家の指導による具体的練習	林 学 氏
3. 19	まとめ	総合的な仕上げ(みんなで合唱)	小林 光 氏

市民大学講座 「福生の自然と環境を考える」

市内に生棲している、植物・昆虫・野鳥などを、それぞれの専門家に説明してもらい、市内の自然の状況を明らかにすることから、私たちの生活と自然の関係を知る機会とした。

期 間 昭和57年11月25日(木)～昭和58年2月3日(木) 全8回

参加者 20人 延人数 81人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 25	くらしの中の自然 I	河原の植物から私たちの日常生活を考える	宮岡 一雄氏
12. 2	くらしと健康 I	有機農業と私たちの食生活を考える	大和田一紘氏
12. 9	くらしの中の自然 II	水生昆虫から河川の水質を知る	田中 和明氏
12. 16	川と生活史 I	身近な河川の生態の実情を知る	川名 国男氏
1. 13	くらしと健康 II	生活の中の洗剤と私たちの健康を考える	小林 勇氏
1. 20	川と生活史 II	生活にかかわる河川の歴史を知る	内田 和子氏
1. 27	身近な自然の意味 I	玉川上水の歴史と自然を考える	坂上 洋之氏
2. 3	” II	身近な植物の変遷を知る	菱山忠三郎氏

子ども会リーダー研修会 (大人)

初めて子ども会役員になる人を対象に、子ども会役員の具体的作業(印刷)を前期に、子どもたちとの接触の仕方、子ども会の具体的プログラムの組み方、役員の役割を考えることなどを後期に開いた。

期 間 昭和57年4月19日(月)～26日(月)

昭和58年3月7日(月)～17日(木) 全6回

参加者 14人 延人数 45人

月 日	テ ー マ	内 容
4. 19	子ども会のパン ブレット作り	ミニコミ誌の基本的な考え方
4. 22		取材の仕方・記事の書き方・見出しのつけ方
4. 26		割り付けや印刷での諸注意
3. 7	子どもと子ども会	子どもの活動を支える社会教育機関の役割を考える
3. 14	プログラムの実践例	市内の子ども会の具体的な実践例から考える
3. 17	子ども役員の役割	子ども会本来のあり方と役員の役割とは何かを考える

自然観察会

私たちが生活をしている福生を自然の側面から観察し、自然のもつ働きと私たちの日常生活との関係を考える機会とした。

期 間

参加者

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 25	植物観察会	春先の植物の観察を通して、生態系を考える	宮岡 一雄 氏
5. 22	水生昆虫観察会	水生昆虫の生活と河川の水質の関係を知る	田中 和明 氏
9. 26	植物観察会	秋の植物の住み分けを観察する	宮岡 一雄 氏
12. 5	野鳥観察会	冬鳥として飛来しているカモ類を観察する	栗原 仁 氏 岡田 紀夫 氏
2. 6	〃	水面に浮かぶカモ類を知ろう	
2. 13	〃	玉川上水沿いの林に住む鳥を知ろう	
2. 20	〃	多摩川と平井川に住む鳥の種類のちがい	
2. 27	〃	山に住む鳥の種類を知ろう	
3. 6	〃	水面と水辺の冬鳥を知ろう	

ザ・YORIAI 活動

日常的に公民館を利用しているサークル同士で話し合い、今持っている各サークルの力を出し合って創造的な演劇をやってみようということで、実験的な試みとして行った。

期 間

参加者

月 日	内 容	会 場
9. 23	各サークルが今回の「劇」に対するイメージを語る	公 民 館
10. 27	用意された「たたき台」をもとに、内容の協議を行う	〃
11. 8	内容の検討と各サークルの担当を決める	〃
11. 17	〃	〃
11. 29	内容の検討と配役の決定	〃
12. 19	各サークルの製作担当者が全員集合し、意思の統一を計る	〃
1. 10	シナリオの最終確認と大・小道具の製作	〃
1. 15	本読み開始と立ちげいこ、大・小道具の製作	〃

月 日	内 容	会 場
1. 22	本読み開始立ちげいこ、大・小道具の製作	公 民 館
1. 29	〃	〃
1. 30	最終的な総合練習（音響設備、大・小道具を用意して）	〃
2. 6	〃	〃

子ども会指導者研修会

地域の子ども会指導者、子ども会役員を対象に、子ども会の役割と、子ども会指導に必要な実技研修を目標とした。

期 間 昭和 57 年 5 月 29 日(土)～ 6 月 26 日(土) 午後 7 時 30 分～ 9 時 30 分 全 6 回

会 場 松林分館

参加者 13 名× 6 回

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 29	子ども会をどうとらえるか	地域子ども会の現状の中で、子ども中心になる子ども会とは	溝渕幸太郎 氏
6. 5	ゲーム指導の基本技術	ゲーム指導のポイントを学ぶ	担 当 者
6. 12	野外キャンプのもち方	野外キャンプの実際とポイント	遠藤 勝正 氏 (全レク会議)
6. 13	〃		
6. 19	子どもが生き生き活動する子ども会とは	子ども会が生き生きと活動するためには、どんな工夫か、実践から学ぶ	吉松 正寿 氏 (少年少女センター)
6. 26	豊かな子どもの生活とは	地域子ども会で、どんな力を子どもにつけて行くかを考える	大崎 玄 氏

子ども会指導者実技講習会

子ども会役員を対象に、子ども会指導のためのゲーム講習会

期 間 昭和 58 年 2 月 5 日(土)、19 日(土) 午後 7 時 30 分～午後 9 時 30 分

会 場 松林分館

参加者 17 人× 2 回

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 5	ゲームをたのしく	多様なゲームをたのしむ	飯田 弘 氏
2. 19	ゲーム指導のコツ	ゲーム指導のコツ、実技	飯田 弘 氏 (日レク指導者)

家庭教育学級

ここ数年来、学校教育の荒れる原因の1つに、家庭教育が問われている。しかも乳幼児期の子育てに原因が向けられている。〃未発達の子どもたち〃と幼児期の教育を点検し直すこと、母親自身の生活を考え直すことを中心に準備会5回の中でプログラムを作成し、実施した。

期 間 昭和58年1月8日(土)～3月26日(土) 午前10時～午前12時 全10回

会 場 松林分館

参加者 12人×10回

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 8	オリエンテーション	講座及び準備会、公民館とは何か	担 当 職 員
1. 22	いま、子育ての中で考えていること	子育ての現状と課題を話しあう	〃
1. 29	〃	〃	〃
2. 5	プログラム作成	プログラムの柱だて、何を学ぶのか	〃
2. 10	〃	プログラムづくり	〃
2. 26	乳幼児期の成長、発達 I	乳幼児期の成長、発達を考え、 子どもにとって 発達とは何かを明らかにする	中村 ちよ 氏 青梅第2ゆりかご 保育園々長
3. 5	乳幼児期の成長、発達 II		
3. 12	乳幼児の体づくり心と体の健康	子どもの体をめぐる現状を明らかに する中で乳幼児の体づくりを考える	阿部 茂明 氏 (日本体育大学 体育研究所)
3. 19	乳幼児とあそび	乳幼児の全生活を通して、 あそびのもつ意味を考える	中村 ちよ 氏
3. 26	子育て後の問題を考える	子育て後の母親の生き方を、 婦人問題の視点からとらえ直す	西村由美子氏 (お茶の水大学 講師)

婦人学級、女性史を学ぶ

女性史研究、あるいは女性史を学習する方法は、今日、やや大まかにいえば、2つの大きな流れがある。1つは歴史学としての女性史、もう1つは庶民の女たちの生きざま、底辺に生きる女たちの生きざまを通し、女性の生活をえがく、「庶民女性史」「底辺女性史」という流れです。後者の流れは、最近、個人史、自分史というかたちで、社会教育に於ける婦人教育の1つの方法として重要になってきています。この講座では、自分史を書く作業をふくめ、(1) 歴史を学びながら時代を考え、(2) 自分の歩んできた自分史を通し、戦後民主主義をあらためて考え、(3) に女性として、母として、さまざまな矛盾をかかえた一個人として、婦人解放、自己解放への道をさぐる婦人問題としての歴史を学び、(4) 歴史学の研究方法を身につけるといふ4つの目標を設定した。

会 場 松林分館

参加者 8人×5人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 2	私たちの年表をつくろう	自分史のための年表作成	担 当 職 員
2. 9	〃	〃	〃
2. 16	〃	〃	〃
2. 23	〃	〃	〃
3. 2	近代女性史、祖母の歴史	幕末から明治に生きた女たち	早川 紀代 氏 (女性史研究者)
3. 9	〃	明治、大正期の婦人運動	〃
3. 16	〃	〃	〃
3. 23	近代女性史、母の歴史	昭和初期から戦後にかけての、婦人	〃
3. 30	〃	解放運動の歴史を学ぶ	〃

教育講座

今年度の教育講座は5月29日から9月30日 全12回の準備会の中で、義務教育、及び後期中等教育に視点をあて、テーマを、「子どもの生活と教育をさぐる」とし、次のように実施した。

期 間 昭和57年10月7日(木)～12月9日(木) 午前10時～12時 全9回

会 場 松林分館

参加者 18名×9回

月 日	テ ー マ	講 師
10. 7	オリエンテーション	担 当 職 員
10. 14	学校教育の現状	白井 慎 氏 (法大教授)
10. 21	成績をどうみるか＝子どもにつけたい学力とは	関根 庄一 氏 (総合教育研究所)
10. 28	義務教育って何かに	〃
11. 13	小・中学校の教育	大崎 玄 氏 (羽村東小)
11. 18	どうして高校へ行くのか、行かせるのか、高校教育とは何か	田代 三良 氏 (教育研究所)
11. 25	高校はどうなって行くのか＝多様化をめぐる	福永 笑子 氏 (三高速)
12. 2	大人が学ぶことの意味	担 当 職 員
12. 9	大人が学ぶこと、実践を通して	鳥海 しげ子 氏

市民大学講座、文学コース「万葉を読む」

古典、万葉の系統的理解とともに、万葉の書かれた時代背景をさぐり、日本の古典文学をた
だしく学ぶ機会とした。

期 間 11月13日～12月18日まで

会 場 松林会館

参加者 13名×6回

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 13	オリエンテーション	自己紹介、プログラム説明 参加文献紹介	担 当 者
11. 21	万葉の旅	万葉の中で旅をとりあげた歌を通して旅を考える	高野 正美 氏 都立 立川短大 助教授
11. 28	高市黒人	高市黒人の旅歌を中心に	
12. 2	山部赤人	宮廷の下級歌人で叙景歌にすぐれ、清澄な	
12. 11	〃	自然詠にすぐれた赤人の作品を読む	
12. 18	高橋虫麻呂	自然や伝説を歌って独自の歌境を開いた 虫麻呂の周辺をさぐる	

市民大学講座 歴史コース、郷土史講座

多摩の歴史を学びながら、市民が自からの力で地域の歴史を発掘し、再構成する力を持ち、
歴史学研究の方法を身につけて行くことを目的とし、郷土史に関する論文を参加者が提出する
ゼミ形式をとった。

期 間 昭和58年2月13日(日)～3月27日 午後2時～4時 全7回

会 場 松林会館

参加者 10人×7回

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 31	オリエンテーション	郷土史講座について	担 当 者
2. 13	郷土史研究方法	歴史学とは何にか、郷土史の方法論	伊藤 好一 氏 (地方史研究協議会)
2. 20	近代の郷土史研究の視点	近代郷土史を 精神史研究の視点からみる	桜沢 一昭 氏 (東日 史)
2. 27	発表論文コメント	郷土史の1年間の 研究成果を発表してもらう	峰岸 秀雄 氏 高崎 勇作 氏

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 6	近世末期の多摩の農村Ⅰ	近世末期の多摩の農村の状況を史料	伊藤 好一 氏
3. 13	近世末期の多摩の農村Ⅱ	をもとにしながら明らかにする	伊藤 好一 氏
3. 20	伊奈村における歳中日記 にみる 酒造醤油の醸造について	歳中日記上の伊奈村石川成文書を通し、江戸末期の在方商人の性格を明らかにする	峰岸 秀雄 氏
3. 27	貨物帳を読んで	内出家文書中にある貨物帳の分析を通し農民の生活を分析する。	高崎 勇作 氏

松林文庫

地域の子どもたちに、すぐれた児童文化財を提供していく場として、地域の母親たちと共催した。

期 間 4月1日(木) 毎週木曜日 午後3時～5時

会 場 松林分館

参加者 1002人

月 日	行 事	月 日	行 事
4. 1	文庫整理	8. 5	読み聞せ 小さいねこ・おへんろさん
4. 8	映画 大昔のきょうりゅう	8. 19	” しの村・私の家
5. 20	映画 砂浜の動物、他	9. 4	文庫連絡会
6. 2	映画 目のしくみ、他	9. 9	なんでも展出品動物園づくり
6. 17	読み聞せ ブルくん・ダンブくん	9. 30	”
7. 1	ペープ・サートづくり	10. 7	”
7. 8	映画 川の流れると川原のようす	10. 14	”
7. 15	七夕かざりづくり	12. 19	文庫会議
7. 22	ポシエットづくり	12. 23	クリスマス会、オペレッタ、赤づきん
7. 29	”	3. 30	文庫会議

市民大学講座・法律「少年法」

少年非行が社会問題化している今日、法律を通してそれらの問題について考えていく。

期 間 昭和57年11月1日(月)～12月7日(火) 午後7時～9時 全6回

会 場 松林分館

参加者 25人×6＝150人

月 日	テ ー マ	講 師	会 場
11. 1	現代における少年非行の特質	三原 憲三 氏 (創価大学教授)	松 林 分 館
11. 8	我が国における少年非行の傾向		"
11. 15	家庭内暴力の原因と対策		"
11. 22	学校内暴力の原因と対策		"
11. 29	少年非行の対策を考える		"
12. 7	少年院見学		多摩少年院

松林分館ひだまりハイク

紅葉深い奥多摩の山歩きをしながらの自然観察

期 間 昭和57年10月31日(日) 全1回

場 所 笹 尾 根

参加者 16人

コース 福生駅 電車 五日市駅 バス 数馬 歩行1時間半 西原峠 (笹尾根) 歩行1時間10分

笛吹峠 歩行1時間10分 笛吹 バス 五日市駅 電車 福生駅

七宝焼教室

七宝焼製作の基礎を通して、市民に実技・教養に関する初歩的学習の機会を提供する。

期 間 昭和58年1月31日(月)～2月28日(月) 午後7時～9時 全5回

会 場 松林会館

参加者 25人×5 = 125人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 31	七宝焼製作	不透明七宝	斉藤 美寿子 氏 (七宝焼作家)
2. 7	"	透明七宝	
2. 14	"	銀ぱく七宝	
2. 21	"	"	
2. 28	"	ミニ額七宝	

松林ホビー教室・マジック

レクリエーション指導のひとつとして、身近な材料を使った簡単なマジックの指導

期 間 昭和58年2月23日(水)～3月16日(水) 午後7時～9時 全5回

会 場 松林分館

参加者 25人×5=125人

月 日	テ	マ	講 師
2. 23	トリック・ロープ		布 目 貫 一 氏 (東京マジック・クラブ会長)
3. 2	トランプ		
3. 9	さいころ		
3. 11	コ イ ン		
3. 16	合 評 会		

松林ホームシアター

すぐれた作品を通して、子供達にすばらしい映像文化を提供する。

上 映 日	上 映 作 品	上 映 時 間	入 場 者
4月24日(土)	「やさしいライオン」「蜜蜂マーヤの冒険」	午後1時半、3時 2回	102人
5月23日(日)	「新・子鹿物語」	午前10時、午後2時 2回	125人
6月26日(土)	「ホセリートの父をたずねて」	午後1時半、3時 2回	70人
7月24日(土)	「ロビンソン・クルーソー」	午前10時、午後2時 2回	80人
8月21日(土)	「禁じられた遊び」	午前10時、午後3時 2回	67人
9月25日(土)	「赤い子馬」	午後1時半、3時 2回	53人
10月23日(土)	「のどか森の動物大作戦」	午後1時半、3時 2回	302人
10月24日(日)	”	正午 1回	
11月27日(土)			80人
12月12日(日)	「森のおじいさんと3つのものがたり」	午前10時、午後2時 2回	80人
1月22日(土)	「ゴリラ大陸」	午後2時、3時半 2回	85人
2月26日(土)	「トンデモネズミ大活躍」	午後1時半、3時 2回	80人
3月26日(土)	「はばたけ天平」	午前10時、午後2時 2回	50人

だれでもなんでも展(松林分館文化祭)

地域に開かれた文化祭をめざし、(1)地域に手づくりの文化を育てるために、(2)市民のふれあいの場に、(3)分館の活動を地域に広め、地域の人々が気軽に参加できる文化祭を目標とし、実行にあたっては、利用者交流会が主体となって「だれでもなんでも展すすめる会」を結成し、準備委員、参加作品を地域から公募した。

準備会日程

月 日	内 容
9月 11 日	「だれでもなんでも展すすめる会」発足、今年のイメージ検討
9月 18 日	主旨検討
9月 25 日	作品公募
10月 2 日	サークルの出展規模の報告、実演コーナーの決定
10月 9 日	当日の役割分担の検討
10月 16 日	当日の運営方法の検討
10月 22 日	作品搬入、展示
10月 23 日 10月 24 日	だれでもなんでも展
10月 30 日	反省会

当日のプログラム

10月23日(土)	展示コーナー（分館利用サークル作品、一般出品者作品の展示） 映画 「のどか森の動物大作戦」「トビウオのぼうやはびょうきです」
10月24日(日)	展示コーナー 自作実演コーナー（陶芸・七宝焼・ペタペタ工作） 伝承あそびコーナー（わりばし鉄砲・はりこのおもちゃ） 模擬店 人形劇 「小さな仲間たち」 児童劇 「オンディーヌ」 映画 「のどか森の動物大作戦」「トビウオのぼうやはびょうきです」
応募作品	616点
参加サークル	14団体
延入場者数	3,647人

「第1回白梅会館利用者発表会」（白梅分館）

白梅会館で活動しているグループの交流の場として、また地域に活動を広めていくことを目的として発表会を実施した。準備にあたっては実行委員会を組織してすすめた。

実行委員日程

日 時	内 容	参 加 者
昭和57年4月2日(金) 午後7時30分～9時30分	演示の部の役割分担をきめる	10団体 12人

日	時	内 容	参 加 者
昭和57年4月8日(木)	午後7時30分～9時30分	演示のプログラム最終検討	7団体 9人
昭和57年4月19日(月)	午後7時～9時30分	プログラム検討——決定	19団体 19人
昭和57年5月14日(金)	午後2時～4時	展示の部の部屋割り、役割分担	6団体 9人
昭和57年5月16日(日)	午後1時～4時30分	ポスター、立看板、めくり作成	19団体 20人
昭和57年5月21日(金)	午後1時～9時	作品搬入、展示	6団体 28人
昭和57年5月24日(月)	午後7時30分～10時	発表会ビデオ鑑賞、反省会	17団体 25人

発表会プログラム

5月22日(土) 展示 「手芸、籐細工、パッチワーク、木彫、生花、文集の作品展」
午前10時～午後5時

演示 映画 「新、子鹿物語」
午後1時15分～2時30分

5月23日(日) 展示 「手芸、籐細工、パッチワーク、木彫、生花、文集の作品展」
午前10時～午後4時30分

演示 「民謡、民謡、詩吟、囃子、コーラスの公演」
午前9時30分～午後4時30分

参加団体数 19団体 展示 6団体

演示 13団体

参加者数 189人 展示 68人

演示 121人

入場者数 約400人(参加者含む)

講座「子どもの生活と文化」

今日の子どもたちをめぐる文化状況は、マスコミによるテレビ、雑誌を通しての娯楽ものが

中心であり、刺激的な内容のものが多く、子どもの生活がゆがめられているといえる。そこで、おとなが子どものよい環境をどうつくっていくかについて考えていく機会として実施した。

期 間 昭和57年10月7日(木)～11月18日(木) 午前10時～正午 全6回

会 場 白梅分館

参加者 27人×6回＝162人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
10. 7	開校にあたり	プログラム紹介、自己紹介 映画「心を育てる子どもの遊び」鑑賞	担 当 職 員
10. 14	子どもとテレビ	テレビ視聴の現状と、テレビが子どもの成長に与える影響を明らかにする。	岩佐 京子 氏 (レナ子ども相談所)
10. 21	子どもとマンガ	最近の少年少女漫画の傾向と問題点を明らかにする。	石子 順 氏 (マンガ評論家)
10. 29	子どもの本と読書	最近の子どもの本の傾向と子どもの読書の実態を明らかにし、子どものためによい本をどのように選び、与えたらよいかを考える。	鳥越 信 氏 (早稲田大学 教授)
11. 11	子どもの生活と文化を育てる大人の役割	子どもの生活や文化を豊かなものにするために、私たちおとなは、いま何ができるのか、読書運動を中心に考えていく。	斉藤 尚吾 氏 (日本親子読書 センター)
10. 18	学んだことをどう家庭で活用するか	学習の成果を家庭や地域で、どのように活用していくか話し合う。	担 当 職 員

子ども考指導者研修会「子どもの生活とおとなの役割」

子どもの生活や成長をめぐる、様々な問題が起きている今日、子どもたちが地域で共に育つためにはどうしたらよいのか、地域のおとなの役割を考えていく機会として実施した。

期 間 昭和58年3月4日(金)～3月18日(金)

会 場 白梅会館

参加者 23人×3回＝69人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
3. 4	失なわれた子どもの 遊びと労働	子どもの遊びや手労働の現状を通して、今日の子どものたちの生活の危機的状況を明らかにする。	寺内 定夫 氏 (子どもとつくる 生活文化研究会)
3. 11	子どもの体と心	子どもをめぐって、どのような問題が起きているかを明らかにする。	坂本 玄子 氏 (小学校教諭)
3. 18	子どもの成長と 地域の役割	地域に生き生きとした子どもの生活をつくって行くために、いまおとなは何をすればよいのかを考える。	田村 武夫 氏 (青山学院大学 助教授)

市民大学講座 社会 「今日の家庭問題」

今日的な家庭問題をとりあげながら、家族とは何か、家族のあり方、ゆくえを考える機会とした。

期 間 昭和58年3月2日(木)～3月30日(木) 午後1時30分～3時30分 全5回

会 場 白梅分館

参加者 17人 延人数 54人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 2	社会と家族	社会と家族の関係、家族の特質、 家族構成の変化、家族機能の変化	西村 洋子 氏 (創価大学助教授)
3. 9	夫婦関係	結婚の意義と結婚の動向、離婚と再婚、 ライフサイクルの変化と夫婦関係	〃
3. 16	親子関係	家族と子どもの社会化、親子関係の 病理、少産少死の時代の親子関係 しつけの意味とその変化	〃
3. 24	老親の扶養と家族関係	変るライフサイクルと高齢化社会 同居と別居、老親扶養	〃
3. 30	家族の国際比較と 家族の未来像	日本の家族の特徴と動向 先進諸国の家族の動き 家族はどこへ行くか	〃

白梅ハイキング

山歩きをいろいろな人と楽しみ、つながりをつくること、自然に親しみ、自然について考える機会として実施した。

日	時	場	所	参加者
昭和57年5月30日(日)	午前7時30分～午後5時	高麗丘陵 物見山 日和田山 巾着田		29人
昭和57年11月14日(日)	午前7時40分～午後4時40分	高水三山 高水山 岩茸石山 惣岳山		11人

利用者研修会（白梅分館）

地域の公民館活動として、より充実した内容となるように、公民館について学習する機会とした。

日	時	内	容	参加者	講	師
昭和57年9月22日(木)	午後7時30分～9時	公民館はどういうところなのか 公民館の意義と役割について		14団体 17人	奥田 泰弘 氏 (中央大学助教授)	

利用者交流会（白梅分館）

白梅分館利用団体と職員により、利用団体相互の交流、分館運営に関するさまざまな事項について協議するために実施した。

日	時	内	容	参加者
昭和58年2月6日(日)	午前10時～正午	各グループ活動状況等の情報交換 館に対する意見、要望		16団体 25人

「第2回白梅会館利用者発表会」実行委員会（白梅分館）

(1) 日頃の公民館活動の成果の発表の場とする。(2) 個々のグループが同一目標に向かって活動することにより、交流・親睦を深める機会とする。(3) 公民館活動を地域に広め、地域の人々が、気軽に公民館にかかわれるきっかけとすることを目的として、58年5月を実施の目処に、実行委員会を組織し準備をすすめた。

実行委員会日程

日 時	内 容	参 加 者
昭和58年2月19日(土) 午後7時30分～9時30分	どんな発表会にしたいか	18団体 26人
昭和58年2月26日(土) 午後7時30分～9時30分	どんな発表会にしたいか 発表会の趣旨検討、実行委員長選出	18団体 20人
昭和58年3月12日(土) 午前10時～11時30分	展示の部、どんな発表をするか	7団体 7人
昭和58年3月12日(土) 午後7時30分～9時30分	演示の部、プログラムづくり	12団体 14人
昭和58年3月20日(日) 午後7時30分～9時30分	演示の部、プログラムづくり 発表会のP・Rの方法	10団体 13人

市民文化教室

1. 主催 福生市公民館・福生市文化連盟

2. 目的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。(生活への還元
・グループへの参加・新しいグループの創造)

(1) 公民館 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。

(2) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大(参加者や活動面)に役立てる。

市民文化教室実施状況

文化連盟共催 12 参加者 248人 延人員 1,984人

コ ー ス	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参加人員
油 絵	5月7日から全10回	デッサン、静物画、風景画	成川 治 氏	20人
盆 栽	6月5日から "	やさしい盆栽のつくり方	大谷 光利 氏 大橋 秀夫 氏	9人
日本人形	6月9日から "	木目人形、御所人形、尾山人形、ヒナ人形	酒井 虹農 氏	9人
俳 句	6月10日から "	現代俳句のやさしい鑑賞と作り方	来住野臥丘 氏	20人

コ ー ス	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参加人員
編物手芸	6月24日から全10回	手軽な手作り手芸と プルオード等	堂田きよ子 氏	43人
民 謡	7月7日から "	民謡踊り (道南盆唄、桜音頭)	東山 夢福 氏	34人
尺 八	7月9日から "	都山流尺八の初歩的な吹奏技 術習得、本曲、合奏曲から民 謡まで	城戸 皓山 氏	11人
将 棋	7月11日から "	定跡(駒落、平手)実践指導、 詰将棋の解き方、手筋の解説	羽鳥 健夫 氏	9人
詩 吟	7月21日から "	基本的な大意、発声、吟じ方 習得する	岡野 心雙 氏	11人
民 謡	9月10日から "	初歩的な民謡の発声(貝殻節、 こきりこ唄、忠義ざくら)		
茶 道	9月6日から "	久田流茶道の習得	杉浦 賢 氏	24人
書 道	9月6日から "	漢字、平仮名、基本の運筆と その知識	私市 好美 氏	29人

公民館主管 (7) 参加者 109人 延人員 701人

コ ー ス	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参加人員
8ミリ 映画製作	5月28日から全13回	8ミリ映画づくりの基礎	佐々木堅次 氏	7人
スクリーン 印刷	6月5日から全10回	布の印刷から紙の印刷まで幅 広い捺染方法を学ぶ	伴内伊三郎 氏	7人
籐 細 工	9月10日から全7回	実用性、観賞性にも富んでい る籐細工の製作方法を学ぶ	兵頭 利博 氏 兵頭 順一 氏	30人
陶芸教室	1月13日から全10回	陶芸の基礎から茶わん等の製 作方法を学ぶ	柴田 繁 氏	18人
七 宝 焼	1月31日から全5回	七宝焼の基礎から中級まで	斉藤美寿子 氏	25人
マジック	2月31日から全5回	身近な材料のできるマジック	布目 貫一 氏	22人
手袋人形	2月26日から全3回	手袋を使っての人形の製作と 演じ方	高田千鶴子 氏	18人

市民大学講座「演劇」

演劇の基礎から裏方までを実習し、自己を集団の中で表現する演劇を通し、文化芸術の向上を目指し、より多くの市民に演劇に対する理解を求める機会として実施した。

期 間 昭和57年9月29日(木)～12月22日(木) 全10回

午後7時30分～9時30分

会 場 公 民 館

参加者 30人 延人数 210人

月 日	内 容	講 師
9. 29	自己紹介、演劇概論	福 島 靖 夫 氏 (劇団ひまわり俳優)
10. 13	基本となる発声等の訓練、演劇概論	
10. 20	基本となる発声訓練を基に朗読実習	
10. 27	基本となる発声訓練と演技実習	
11. 11	〃	
11. 17	〃	
11. 25	〃	
12. 1	〃	
12. 15	エチュードの発表	福 島 靖 夫 氏 佐 藤 勝 貫 氏 (照明関係技術者) 上 島 茂 氏 (音響関係技術者)
12. 22	大ホールにて照明、音響施設見学	

第1回公民館のつどい

1. 主 催 公民館のつどい実行委員会・福生市公民館
2. 実施日 7月3日(土)、4日(日)
3. 目 的 公民館の開館5周年をひとつの節として、さらに利用者相互の交流を深め、公民館活動のより一層の発展を目指す機会にしようと実施した。
4. 内 容 7月3日(土)

広 場 名	午 前	午 後
音楽広場	準 備	14:00～16:05 ファンファーレ 吹奏楽愛好会 あいさつ

広 場 名	午 前	午 後
音 楽 広 場	準 備	記 念 講 演 公民館が目ざすもの 岡本 包治 氏 休 憩 コ ー ラ ス 子どもコーラス・二中コーラス・市民コーラス 合 同 コ ー ラ ス コーラス団体 参加者・客席と一緒に（曲名：夏の思い出・たなばたさま・今日の日はさようなら）
展 示 広 場	準 備	油絵の展示（彩光会） 人形の展示（手作り人形の会） 習字の展示（松閑墨翠会） 文集の展示（小径会） 学習の成果 （ゆずり葉・保育懇談会） 陶器の展示（陶友会）
劇・上映広場	準 備	14:30～15:45 創作放送劇の上演、孫悟空の負けた日他（サークルななよん） 人形劇の上演、白雪姫他（マンガクラブ） 映画の上映、冬山合宿計画（福生 8 ミリクラブ・緑峰会）
おまつり広場	準 備	15:00～17:30 模擬店販売（やきそば、ポップコーン他） 二中フォークグループ演奏 みんなでフォークダンス ・みんなで社交ダンス 子ども広場もあるよ（手作りおもちゃの作成）
おしやべり広場		

7月4日(日)

広 場 名	午 前	午 後	主担当サークル
音 楽 広 場	準 備	13:00～15:00 吹 奏 楽 コ ー ラ ス フォークソング ジ ャ ズ 民 謡 コ ー ラ ス タンゴとダンス 合 同 コ ー ラ ス	タンゴアンサンブルア ミーゴ 市民コーラス 混声コーラス 小さな 音楽会 ハイブリッド ジャズオーケストラ コールアンジェリカ ソニアルダンスクラブ 社交ダンスクラブ 吹奏愛好会 子どもコ ーラス

広 場 名	午 前	午 後	主担当サークル
		大コーラス 各サークル及びコーラス団体 (曲名：夏の思い出・たなば たさま・今日の日はさよなら	二中混声コーラス・P TAコーラス 二中フォ クソングクラブ 美藤会
展 示 広 場		3 日 と 同 じ	彩光会 手作り人 形の会 松閑墨翠 会 小径会 保育 懇談会 ゆずり葉 陶友会
劇 ・ 上 映 広 場	準 備	13:30～15:30 創作放送劇の上演、孫悟空の負けた日他(サ ークルななよん)、人形劇の上演、白雪姫他 (マンガクラブ) 赤ずきん他(小さな仲間 たち) 8 ミリ映画の上映、冬山合宿計画 (F8C、緑峰会)	福生8ミリクラブ 緑峰会サークル'74 マンガクラブ 小さな仲間たち
お ま つ り 広 場	準 備	14:00～17:00 模擬店販売(お好み焼、綿菓子他) みんなで社交ダンス みんなでフォークダンス 民謡踊り(福生よいとこ他) フィナーレ 福生音頭を歌って踊ろう	社交ダンスクラブ ソシアルダンスクラブ 保育 懇有志 福生フォ ークダンス同好会 ヨガ サークル 子供クッキ ングクラブ サークル'74 ゆずり葉 福手の会 ハイブリッドジャズオー ケストラ 福生吹奏楽愛好会
お し ゃ べ 広 場	10:00～12:00 ○親子問題について ○公民館のあり方について		ゆずり葉 保育懇談会 語らいの広場 グループのぞみ

6 市民会館主催事業

1. 目的 会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また文化、芸術の創造の契機となるよう行われる。それは、市民が鑑賞者として、"素晴らしいもの"を受取る心をいつまでも持ち続け、会館が主催者として、

市民の求める「素晴らしいもの」を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、開催する。

2. 目標 定着化したオーケストラコンサート、ポピュラーコンサート、落語鑑賞会、映画会等、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を望んでいる。また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に知ってもらうため、宣伝活動の徹底を心がける。

公演種目	日時	会場	入場料	入場者	出演者、内容
落語鑑賞会	昭和57年 6月26日(土)	市民会館 小ホール	前売券 400円 当日券 450円	125人	柳家メ治、古今亭志 ん太、入船亭扇好、 林家時蔵、 古今亭朝太
ゴダイゴライブ in FUSSA	昭和57年 12月4日(土)	市民会館 大ホール	全席指定 1,800円	727人	ゴダイゴ
ふっさニュー イヤーコンサート 「音楽物語・ 窓ぎわの トットちゃん」	昭和58年 1月16日(日)	市民会館 大ホール	指 定 2,500円 自 由 大人2,000円 小人1,500円	1,145人	黒柳徹子 新星日本交響楽団

市民名画劇場

上映作品	上映日	上映回数及び入場者数
いつも心に太陽を	5月22日(土)	午後・夜間 2回 118人
アラビアのロレンス	7月17日(土)	午後・夜間 2回 180人
衝動殺人、息子よ	9月18日(土)	午後・夜間 2回 141人
チャップリンの独裁者	11月 6日(土)	午後・夜間 2回 77人
クリスマスツリー	12月18日(土)	午後・夜間 2回 148人
星の王子さま	1月29日(土)	午後・夜間 2回 348人
グッドバイガール	3月12日(土)	午後・夜間 2回 264人

会場はいずれも市民会館小ホール